

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で  
核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

# 平和行動in広島

## 参加報告

2023年8月5日（土）～6日（日）  
参加者5名



### 1. 連合ピースウォークへの参加

ピースウォークでは、原爆ドームをはじめ平和公園内にあるさまざまな慰霊碑を回り、構成組織の方から説明を受けました。

その中の一つ「原爆の子の像」を紹介します。この像は白血病のため12歳の若さで亡くなった被爆少女、佐々木貞子（ささきさだこ）さんの死を悼（いた）んで、全国の少年少女たちの募金で建立されました。



貞子さんは「鶴を千羽折ると願いがかなう」と信じ、夜も眠らず「生きたい」という願いを込めながら薬の包みなどで鶴を折り続けましたが、その祈りもむなしく9カ月の闘病生活の後、亡くなりました。

この像の高さは9m、その頂上に金色の折鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、「平和な未来への夢」を託し、側面左右の二体は、「少年」と「少女」と「明るい希望」を象徴しています。正面のV字型のデザインは「平和な空を鳥が飛んでいる姿」を表現しています。

### 2. 連合2023平和ヒロシマ集会への参加

集会では、開会あいさつののち全員で黙祷を捧げました。各来賓のあいさつの後、講演「G7サミットとヒロシマ」と題して水川野恭輔氏の講演を聴きました。オバマ大統領（当時）の広島訪問、国連本部での核兵器禁止条約の制定会議等取材の話をお聴くことができました。被爆体験証言では、箕牧智之氏の話をお伺いしました。その当時の生々しい様子のお話や被爆を語り継ぐ活動を開始した想いなどを話されました。



芳野友子連合会長



被爆体験を語る  
箕牧智之氏

また、若者からのメッセージとして、「高校生平和大使」による、活動報告と決意表明が行われました。「平和大使」として、国連をはじめ、軍縮会議などに参加し世界に向けて「核兵器の廃絶と世界の恒久平和を求める被爆地の願い」を発信しているとのこと。しかし、こうした取り組みに反し、日本政府の対応が、「立場」を理由に、彼・彼女らの活動と相異するということが課題だと、訴えていました。



高校生平和大使

その後、連合広島から連合長崎へピースフラッグリレーを行い、平和アピールを全員の拍手をもって確認して集会を終了しました。



### 3. 連合・原爆死没者慰霊式

原爆死没者慰霊式は、原爆ドーム前で実施しました。開会あいさつ後、全員で黙祷をし、誓いの言葉が述べられました。その後、連合会長・関係団体代表者による献花が行われ、各地域の持参した水を地域代表者が献水を実施しました。最後に、参加者全員による献花（菊の花一輪）を実施して終了しました。



献花

献水

### 平和行動in広島に参加して

4つの平和行動のひとつ、連合2023平和ヒロシマ集会が8月5日～6日にかけて開催されました。全国の連合構成組織、地方連合会、共催団体、後援団体をはじめ、多くの仲間の皆さんが広島のに集結されていました。岐阜からは、2産別4名と事務局1名の5名で参加しました。うだるような暑さの中、78年前の事実を肌で感じようと、真剣な眼差しで取り組んでいました。

式典がテレビでも放映されていましたが、広島の本音として戦争の悲惨さを後世に伝えて、二度と戦争を繰り返してはならないということを訴え続けようとする姿です。

松井市長の平和宣言の中で、サミットで発表された核軍縮に関する「広島ビジョン」が肯定した核抑止論に言及し、「世界中の指導者は核抑止論は破綻していることを直視するべきだ」と広島ビジョンを否定するような訴えや、日本政府に核兵器禁止条約の早期署名や批准、11月にある締約国際会議へのオブザーバー参加を求めた。岸田首相がいる中での発言に正直驚いた。

私たちが、目指すべき社会「核兵器ゼロ」は、まだまだ遠く長い道のりです。広島・長崎を訪れた人々に、いや、日本が世界中にその悲劇を訴え続けなくてはなりません。私たちは語り部の方から聴き、資料を見て学んだことを、自分の家族や周りの人に、会社や組合で語り継ぐことが、核兵器ゼロ社会の実現の、ほんのかすかな一助になることを信じて行動しようとあらためて思いました。